

# 琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件 要人往来 米国要人その他

|       |   |
|-------|---|
| メタデータ | 言語:<br>出版者:<br>公開日: 2019-01-28<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: -<br>メールアドレス:<br>所属:       |
| URL   | <a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43339">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43339</a> |

フィン 日本部長の訪沖

44  
5  
8  
5  
18

秘 沖縄公使

アメリカ局長

参事官

北米第一課長

写

総沖才 1467号  
昭和44年5月14日

総理府特別連絡地域局長 殿

日本政府沖縄事務所長

フィン日本部長の訪沖について

フィン米國務省日本部長は5月8日-10日の間  
訪沖し、当地各界の指導者と意見交換を行なつた。

主たる会談日程は以下のとおり。

5月8日 屋良主席

平田高赫首席判事

平良那覇市長

9日 民政庁

日米琉語同会 (3:15 ~ 3:45 p.m.)

才二兵站司令官

高等弁務官

日本政府

8/14

要処理  
首席判事  
南方  
渉外  
漁業  
航空  
学協力  
連絡調整  
調査  
力夕  
事務



フィン米第一課長  
送付  
5/20

10日 自民党幹部

社大党幹部

2. 以上の諸会談で注目されたのは屋良主席、  
日米琉語同会との会談であったが、屋良主席は

以下を通りの7項目の要望書をフィン部長に手交  
し、各項目につきそれぞれ説明を行なつた。理由  
ある。

i 祖国復帰に関する即時無条件全面返還  
について

ii B-52の即時撤去について

iii 原潜寄港の即時取止めについて

iv 核基地撤去について

v 総合労働存在の撤廃について

vi 軍雇用員の解雇問題について

vii 日本政府からの供与米受入れについて

これらの諸要望は、屋良主席が常にくり返して  
いるとあり、フィン部長もこれを予期して11日  
受取つたと伝えられている。

日本政府

3. 諮問委員の会談要旨以下のとおり。  
 (高瀬大使の口述による。)

○ フィン部が瀬長代表に屋良政権の信頼度につき質問したのに対し、瀬長代表は、現在までのところ十分な信頼が置ける。しかし、最終的信頼といふことはまだない。何故ならば、社会党あるいは人民党との関係がまた「明かされて」ないからである。同主席は、今までの余り非常識なことをして

○ いるし、また出来もしないであろうと述べた。

○ 高瀬大使は、瀬長代表の発言に賛意を表すると共に、「これは単に本使が感じているのみならず、事実も証明している。即ち、瀬長代表の人事問題につき時間ばかりたか、われわれの期待にかなった結果を得たことである。」との発言があった。

○ 次の高瀬大使は、東京・ワシントンにおいて、今後とも TOUCHY 内題

が多いと思ふが、これに専念して頂き、今後の日米国交100年へために努力して頂きたい。

○ フィン部  
 就任以来極めて多忙であった。これは単に國務省においてのみならず、南連機關においても然りである。これは、米の沖縄問題に真剣な態度を示して頂きたいと理解して頂きたい。沖縄問題解決につき、今秋総理訪米の際、日時を明示するべく、沖縄返還のための合意を、諸般の準備を進め、出来るだけ早く返還を実現するよう

○ 決定が出た場合如何  
 瀬長代表

○ 日時の明示がなければ、反対勢力は声高にこれを非難し、沖縄の政情は不安定を増すであろう。

○ 高瀬大使

同意。米の国内事情はよく了解アツキ、日時の明示は不可欠ト考之。

フィン部長

少くとも國務省に關する限り、諮問委に対して

はいかある協力も惜しまない。ハスマン委員長は

3/1の勸告のすべてをよよく知っており、諮問委

の努力も高く評価している。自分も全力をあげて諮問委に協力したい。

日本政府

4. 本件に關し、関係者が米國に内話せる所以下の通りの趣、御参考まで。

(1) 屋良主席

自分からは七項目の要望書を手交し、沖繩問題の

処理を誤ると、将来米の爲にも、又本土の爲にも

おしい結果を残すことになる旨強調した。

フィン部長は非常に洗練された外交官だと思つたが、同氏は愛知外相、ロジャース國務長官、佐藤総理

等の往來訪を通じ次第に惹き寄せた結果が期待出来るが、政治的、軍事的面の調和をとりつつ

譲るべき所は譲つてこの重要な問題を解決したいと述べた。

特に同氏は沖繩の経済的復興を称賛していたが、自分はこれは1には基地に依存した経済

で永久的なものではなく不健全である。2には本土に比較し、非常に格差の大きいものであり、

日本政府

手放して喜ばないことを強調しておいた。  
岡氏がどんな印象をもったか自分には判らない。

(四) カーペンター 氏政言

フィン部長は大战中海軍少将として一度沖縄を

通過したことはあるが、沖縄を訪問したのは始めて  
と云っている。彼はむしろ静かな沖縄を予期して

来島したようであるが、政治的、経済的に激しく  
動いている現状に強く印象づけられたようである。

特に沖縄の経済的發展には驚いたようである。  
彼は沖縄で多くのものを学びとったと云っている。

(一) 太田幹事長、桑江政調会長(自民党)  
われわれがフィン部長に強調したのは、

(1) 施政権の早期返還につき特段の努力を  
御願したい。

(2) 基地態様につき本土並みであれば、もし及  
基地感情があるとしても、これは本土政府に

向けられるが、もし基地態様につき相違する  
ものがあるならば、この感情はそのまま米国に向け

られるであろう。これは米の有効な基地保持の  
障害となろう。

(3) 11月に施政権返還のメドづけが行なわ  
れることを期待しているが、メドづけより返還

実施迄の期間に、勿論沖縄側も努力するが  
日米協力の上、才一次、才二次産業の基礎

づくり、本土との経済的な格差是正の有効  
な投資をして貰いたい。

以上の3点を強調した。

これに対し、フィン部長からは明確な回答は出  
てこ

てなかったが、その言葉の端々からは次のような  
印象を受けた。

(1) 11月には施政権返還のメドづけが行なわれ  
るであろう。

(2) 施政権返還はわれわれが期待しているよりも早く来るのではないか。

(3) 基地の態様は、11月のメドブけまでに決定することとは困難であるが、施政権返還実現

の時点までには、旧米の協議を重ねた上決定したいという姿勢ではないか。

ということである。

一般的印象として明るい見通しをもったと言える。

本信写送付先：外務省アフリカ局長